

三綱領 【自主自律】進取の気象を涵養する 【質実剛健】好学の気風を養成する 【師弟同行】敬愛の美風を育成する



同窓会だより

第23号
平成30年8月



発行/熊本県立鹿本高等学校同窓会 〒861-0532 熊本県山鹿市鹿校通3丁目5-1 TEL.0968-44-5101 FAX.0968-44-6899
ホームページ/http://sakura1.higo.ed.jp/sh/kamotosh/ Eメール/kamoto-h@pref.kumamoto.lg.jp ■印刷/株式会社トライ

創立百二十周年・統合五十年の 記念事業を振り返って



鹿本高校同窓会 会長

中嶋 憲正

(昭和四十四年鹿本高卒 山鹿市長)

夏本番を迎え、山鹿の夏の風物詩「山鹿灯籠まつり」に胸躍る今日この頃、会員の皆様には、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

平素は、本会の活動に対し、格別のご理解とご協力を賜り、深く感謝申し上げます。

まずは、昨年、鹿本高校創立百二十周年・統合五十年の節目の年に、さまざま記念事業を開催するにあたりご尽力いただきました学校、PTA並びに同窓会の皆様に厚く御礼申し上げます。

企画していただきました全ての事業を盛大に開催することができ、本校の新たな一歩を踏み出す契機となりましたことを、関係者の皆様と共に、心からお喜び申し上げます。

さて、本校の新たな歴史のページとなりました記念事業を振り返りますと、私たちに夢を持つことの大切さを教えていただいたのが、本校の卒業生である蒲島熊本県知事の「記念講演会」であります。

「逆境の中にこそ夢がある」と題し、知事自らの人生をひもときながら、「人生の可能性は無量大」、

「期待値を超えろ」、「百二十%の努力」など心に残る貴重なお言葉は、在校生はもとより聴衆の皆様にも、これからの人生の指針ともなる素晴らしいお話でありました。

また、「鹿本高校歴史資料館」の開館は、本校の新たな財産となりました。

この事業は、考古学部顧問の高木康博先生(現東稜高校教諭)と部員の皆さんを中心に会場の設営を行い、会員の皆様のご協力で、歴史的にも価値の高い、たくさんの貴重な資料が集まり、本校の輝かしい歴史と伝統に思いをはせることができました。

当館は、本校同窓会館内に常設となっておりますので、是非ともご覧いただきたいと思っております。

その他の事業についても、滞りなく終えることができた背景には、同窓会が中心となり展開した「募金活動」がありました。

募集から短い期間ではありましたが、会員の皆様の温かいご協力のおかげで、たくさんのご浄財をお寄せいただき、今回の記念事業を円滑に進めることができたと思っております。

の発展と在校生の活躍をしっかりと支えていくために、この募金活動は継続して参りますので、会員の皆様のご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

本校は、新たな歴史の第一歩を踏み出しましたが、一方で、少子化が進行する中、如何に生徒を確保していくかということが深刻な問題となっております。

「伝統の襷」を未来永劫繋ぐために、同窓会として何ができるのか、会員一人ひとりが真剣に考えなければならぬ時期に参っております。

これからも歴史や伝統の重みを 物心両面で支え教えてまいります



校長 瀬口 和弘

同窓会の皆様にはますます御健勝のこととお喜び申し上げます。また、皆様方には、日頃から本校の教育活動を支えて頂いていることに対し、心から感謝申し上げます。

今、熊本地震という未曾有の災害の中で、熊本県は、復旧・復興に向かい一歩ずつですが着実に歩を進めています。鹿高生の多くが、普段の生活のありがたさや、助け合い支え合うことの大切さを常に感じていると思います。故郷の将来を担う鹿高生が、大きな夢を持

珠玉の言葉を私たちの知恵と行動力で体現しようではありませんか。結びになりますが、この度の記念事業を振り返り、改めて鹿本高校の歴史と伝統の素晴らしさ、先人・先輩たちの偉大さ、そして同窓生の絆の深さを実感し、本校の卒業生であることの誇りと感謝の念が湧き上がり、母校愛がさらに高まるものを感じました。

に役立つ人材」を多く輩出することが本校の使命であると改めて感じているところです。

ところで、福沢諭吉は、「活用法なき学問は、無学に等しい。」と述べています。どんなに学問をしても、実践に活かさなければ意味がありません。また、福沢は、学問を各人がそれぞれの社会的役割を果たすための外面「術」(手段)としてとらえる一方で、それを支える高い内面「志」がなければならぬとも述べています。内面と外面とが釣り合った高い水準の学問を担う人間に「人望」が集まるといっても強調してはいます。そして、「人望」がなければ人間は十分にそれぞれの社会的役割を果たすことはできない、つまりその「学問」は用をなさないというのです。これからも予想もつかない厳しい社会情勢が待ち受けています。教職員一同、与えられた責務を全うし、知恵を働かせながら、未知なるものへの問いとしての学問を鹿高生に浸透させ、地域進学拠点校としてしっかりと地道に一歩ずつ、前に進みたいと考えております。

学校の歴史や伝統といったものは決して学校関係者のみで作られるものではありません。長い年月の間に、地域の中で育まれて初めて醸成されていくものです。私達はこれからも鹿本高校の持つ、歴史や伝統の重みを、物心両面から支え教え続けていく所存であります。

最後になりましたが同窓会会員の皆様はますますの御健勝と御活躍を祈念いたしまして、「あいさつ」といたします。

1

記念講演
講師 熊本県知事 蒲島 郁夫氏
演題 『逆境の中にこそ夢がある』

20年前に鹿本高校に来たことを今でも昨日のようによく覚えています。その時のテーマが『人生は夢』、そして今日のテーマは『逆境の中にこそ夢がある』。この『夢』が私の人生で常についてまわっています。

私は、東大法学部で政治学を教え、東大法学部の学生に対して、私は「政治とは可能性の芸術である。いかに不可能なことを可能にしてくかが政治の一番大事なポイントである。」と教えてきました。そして、人生の可能性も芸術であると私は思っています。今日は、私の人生でのチャレンジ、そして知事として県政におけるチャレンジについてお話しします。

私は、熊本県鹿本郡稲田村(現山鹿市鹿本町)で9人兄弟の7番目として生まれました。食糧難の時代で、勉強はほとんどせず、高校入試の勉強も一度もしませんでした。だから、成績は悪かったのですが、3つだけ大きな夢を持っていました。1つ目は、小説家になること。2つ目は、阿蘇の大草原で牧場を開くこと。そして3つ目は、政治家になることです。

高校を卒業したら、稲田村農協に入りました。そこで、2つ目の夢である牧場を開くために、農業研修生

のプログラムを利用してアメリカへ行き、農業の研修を2年間受けました。そのプログラムでネブラスカ大学での学科研修が3ヶ月ありました。そこでもっと勉強したいと思うようになり、24歳の時に再び渡米し通訳の仕事しながらネブラスカ大学の入試を受けることにしました。しかしあえなく不合格。ただし、6ヶ月だけ様子見として入学させてもらえました。チャンスは6ヶ月、その時死に物狂いで勉強しました。すべての科目が90点以上であることをストレートAといいますが、375人の学生のうち10人しか取れません。この時、私は必死に勉強しストレートAを取ることができ、授業料免除、奨学金を2つ、特待生になることができました。

4年間勉強して、研究者という選択肢があることがわかりました。研究者になるなら一生勉強しなければならぬ、一生勉強するんだと思ったらいいだろうと考えた時、もう一つの夢「政治家になること」がよみがえってきました。そして、28歳の時にハーバード大学大学院に行って政治学の勉強をすることにしました。しかし、ハーバード大学は授業料が高いため、奨学金が必要です。さらに授業料免除もお願いし、私はハーバード大学に入ることができました。普通はダメだとあきらめるかもしれませんが、入る可能性があると思って頑張ると拾ってくださる人がいるのです。ハーバード大学には世界中の英才が集まっていますから、ここでも死に物狂いで頑張りました。すると、先生もクラスメートも認めてくれました。不可能なことはないのです。大事なことはここぞと思った時に手を挙げ、自分にプレッシャーをかけてやり遂げる。それがとても大事だとその時感じました。

日本に帰り、筑波大学で17年間政治学を教え、50歳の時に東京大学法学部からお誘いがありました。東京大学法学部には、優秀な学生が集まるため、しっかり準備して必死で教えました。そしてゼミ生を募集し日本政治の新党の研究をしました。その時のゼミ長が後に総務省から熊本県総務部長としてくる木村敬君、副ゼミ長が現在副知事をやっている小野泰輔君でした。そのようなつながりができ東大でよかったなと思っています。

通はダメだとあきらめるかもしれませんが、入る可能性があると思って頑張ると拾ってくださる人がいるのです。ハーバード大学には世界中の英才が集まっていますから、ここでも死に物狂いで頑張りました。すると、先生もクラスメートも認めてくれました。不可能なことはないのです。大事なことはここぞと思った時に手を挙げ、自分にプレッシャーをかけてやり遂げる。それがとても大事だとその時感じました。



う優しさがふるさとはあるなと感じました。「不可能を可能にするのが政治である。」という考えのもとに、知事として私が行ったのが熊本県の財政再建です。知事の月給の100万円カット、最終的に熊本県職員の給与カットなどにより財政再建を行いました。大変でしたが、7年間で1500億円の借金を返し、貯金を倍にすることができました。震災においても、この時に財政再建をしていたので躊躇なく災害対応ができました。また、財政再建を行ったことで政治的信頼を得ることができました。

2期目には、くまモンの成功があります。くまモンは4つの意味で貢献してくれています。1つ目は熊本の本の経済への貢献。2つ目は、熊本の人々のプライド・誇りへの貢献。3つ目は、安全・安心への貢献。4つ目は、我々の夢への貢献。くまモンそのものが不可能を可能にした存在じゃないかなと思います。橋を作るとか道路を作るとか普通の行政のパターンではなく、くまモンを作ることです。それ以上の効果をもたらす、不可能な行政を可能にしてきたと思います。

そして、一番大事なのが、震災対応です。最初は途方にくれましたが、このピンチをいかにチャンスに変えるかということで、次の3原則で震災対応を行っています。1つ目は、被災者の皆さんの痛みの最小化。2つ目は「Build Back Better(創造的復興)」。3つ目は、創造的復興を熊本の発展につなげる。このような形で今県政をとっています。

今日のテーマは、『逆境の中に夢がある』です。不可能を可能にすることです。これは、人生においてもそうです。皆さんの将来においてもそうであると思います。私から皆さんに4つのメッセージを送ります。

1つ目は、「人生の可能性は無限大だろう。」ということ。鹿本高校でギリギリだった私が、アメリカの大学に行き優秀な成績をとることができたこと。筑波大学、東京大学の先生になったこと。そして皆さんのおかげで知事になることができたこと。人生の可能性は無限大です。

2つ目は、「夢を持たなければならぬこと。」です。私は、小説家、牧場主、政治家の3つの夢があったからこそ、今ここに立っています。牧場主になりたいたいと思いつつアメリカに行き、政治家になりたいたいと思いつつアメリカに行きました。実際に60歳になって政治家になりました。できれば、夢は3つくらい持った方がいいですね。小説家の夢はまだ叶えていませんが、今後面白い小説やノンフィクションを書きたいなと思っています。

3つ目は、「夢に向かって一歩踏み出すこと。」です。私も21歳の時にアメリカに踏み出しました。そして一度日本に帰って夢をかなえるために再びアメリカに渡りました。夢に向かって飛び出していったことで、東大に行ったり、知事になったりすることができました。不可能を可能にする



©2010 熊本県 くまモン

平成29～30年度表彰

陸上競技部

- 第70回全国高等学校陸上競技対校選手権大会熊本県予選大会
男子400m 2位 吉野 晃太 49秒93
110mハードル 2位 堤 健太郎 14秒77
800m 6位 渡辺 友朗 2分00秒79
400mハードル 6位 村田 滉平 56秒53
4x400mリレー 2位 (村田・吉野・吉富・渡辺) 3分18秒89
●秩父宮賜杯第70回全国高等学校対校陸上競技選手権南九州地区予選大会:熊本
男子400m 6位 吉野 晃太 49秒14
110mハードル 2位 堤 健太郎 14秒93
400mハードル 6位 村田 滉平 54秒29
4x400mリレー 2位 (村田・吉野・吉富・渡辺) 3分17秒07
●秩父宮賜杯第68回全国高等学校対校陸上競技選手権:山形
男子400m 吉野 晃太
110mハードル 堤 健太郎
400mハードル 村田 滉平
4x400mリレー (村田・吉野・吉富・渡辺)
●熊本県高等学校新人陸上競技大会
男子走幅跳 1位 内田 将樹 6m90
4x400mリレー 4位 (吉富・洲上・高木・豊田) 3分27秒48
●全九州高等学校新人陸上競技大会
男子走幅跳 8位 内田 将樹 6m70

柔道部

- 熊本県高校総体
男子団体 ベスト8
男子個人 60kg級 堀田 拓(3年) 優勝
(インターハイ出場・九州大会)
66kg級 富永 雄大(2年) 3位
73kg級 平松 海(3年) 3位
81kg級 山室 航(3年) 準優勝
(九州大会出場)
●九州ジュニア体重別熊本県予選会
男子個人 60kg級 堀田 拓(3年) 3位
73kg級 富永 雄大(2年) 3位
●全九州高等学校体育大会(大分県別府市)
男子個人 60kg級 堀田 拓(3年) ベスト8
81kg級 山室 航(3年)
●熊本県下1年生大会(山鹿市総合体育館)
男子個人 73kg級 村瀬 和麻(1年) 3位
90kg級超級 久原 大輝(1年) 3位
●全国高等学校柔道大会(インターハイ:福島県郡山市)
男子個人 60kg級 堀田 拓(3年) 出場
●全国高等学校体育学科・コーススポーツ大会柔道大会(講道館)
男子団体 ベスト8

- 笑顔でつなぐえひめ国体(国民体育大会:愛媛県)
少年男子 熊本県代表(先鋒) 堀田 拓(3年) 第5位
●県下高校柔道大会(山鹿市総合体育館)
男子団体 第3位(九州大会出場)
男子個人 60kg級 岡本 海輝(2年) 3位
73kg級 富永 雄大(2年) 優勝
(九州大会出場)
81kg級 荒牧 優斗(2年) 3位
90kg級 平山 拓巳(2年) 優勝
(九州大会出場)
●九州高等学校新人柔道大会(長崎県諫早市小野体育館)
男子団体 出場(ベスト16)
男子個人 73kg級 富永 雄大(2年) ベスト8
90kg級 平山 拓巳(2年) ベスト8
●全国高校選手権大会熊本県大会
男子団体 第3位
男子個人 60kg級 岡本 海輝(2年) 3位
73kg級 富永 雄大(2年) 優勝
(全国大会出場)
81kg級 荒牧 優斗(2年) 準優勝
// 奥村 伊旦(2年) 3位
●全国高校選手権大会(日本武道館)
男子個人 73kg級 富永 雄大(2年) 出場

剣道部

- 熊本県高校総体
個人ベスト8 井立 了仁(九州高校総体出場)

ダンス部

- 第68回熊本県高等学校ダンス発表会
優秀賞

生物部

- 平成29年度熊本県生徒理科研究発表大会
最優秀賞
●平成29年度九州高等学校生徒理科研究発表大会
最優秀賞
「ナガバノモウセンゴケの捕虫時における捕虫葉の変化について」 大塚 友詞(2年)

美術部

- 第46回熊本県高等学校総合体育大会用ポスター図案審査
優秀賞 古江 玲奈(2年) 佳作 荒木 千穂(2年)
●第42回熊本県高等学校美術展
優秀賞 森 彩花(1年)
優良賞 古江 玲奈(2年)

書道部

- 第46回全国高校書道展
特選 高木 美那(3年) 中島 碧海(2年)
長野 朋佳(2年)
●第16回岐阜女子大学全国書道展
奨励賞 坂本 典子(3年) 高木 美那(3年)
西川 真琴(2年)
●第53回熊本県高等学校書道展
奨励賞 西川 真琴(2年)
●第19回日中友好熊本県書道展
FMK賞 坂本 典子(3年)
●第7回熊本県新春学生書道展
準大賞 中島 碧海(2年)

百人一首競技かるた部

- 第39回全国高校選手権大会熊本県代表選考会
準優勝
●第29回熊本県高等学校総合文化祭小倉百人一首かるた大会 源平戦の部
準優勝
●第39回全国高等学校小倉百人一首かるた競技選手権大会
個人戦 第4位入賞
初段の部:光山 真人(3年)
●第41回全国高等学校総合文化祭宮城大会
ベスト16 木庭 しおり(3年)松尾 美貴子(3年)
森 卓命(2年)
●第7回九州地区高等学校小倉百人一首かるた競技大会熊本県予選
優勝
主将:樺木 優多佳 副将:梅田 響貴 三将:森 卓命
四将:富田 大登 五将:福島 高人 六将:高永 志帆
七将:平井 怜菜 八将:山崎 里菜
●第1回全九州高等学校総合文化祭小倉百人一首かるた部門沖繩大会
ベスト8
主将:森 卓命 副将:樺木 優多佳 三将:富田 大登
四将:梅田 響貴 五将:福島 高人 六将:高永 志帆
七将:米ヶ田 祐成 八将:藤田 祐希
●第40回熊本県高等学校小倉百人一首かるた競技大会(源平戦)
最優秀賞
Aチーム(森 卓命、樺木 優多佳、富田 大登)
優秀賞
Bチーム(梅田 響貴、福島 高人、藤田 祐希、山崎 里菜)

合唱部

- 平成29年度熊本県合唱コンクール
金賞(九州大会出場)

吹奏楽部

- 第61回熊本県吹奏楽コンクール
高校A/パート 銅賞

「学術優秀賞」

平成29年度 鹿本高等学校 「同窓会賞」受賞者

稲葉 有紀さん

1年次より、日々の学習や復習も欠かさず丁寧に行い、提出物も必ず期限を守って提出するなど、地道に努力を重ねることで着実に基礎学力をつけ、その成果が見られた。自ら教室の一番前の座席を希望して授業を受けるなど、学習意欲が非常に高く、授業ではその時間内で全てを理解しようとして集中し、授業内容の重要な点を工夫して自分でまとめていた。定期考査に向けては、各教科で成績の差が出ないように家庭学習の時間配分も考え、常に向上心を持って努力を重ねた結果、評定は保健体育を除き全ての教科で5を取め、3年次は学年首位の成績であった。また本人の授業や課外に真剣に取り組み姿勢は他の模範となり、クラスの学習に向けた雰囲気作りにも大きく貢献した。

「体育栄誉賞」

堀田 拓さん

基本的な学習習慣と生活習慣が確立しているため、学習と部活動の両立を実現することができた。温厚で優しさが見られるが芯の強さもあり、人の意見に流されることがなく、物事を客観的に判断し冷静に対処できる。

「文化栄誉賞」

木庭 しおりさん

学習面では添削指導や発展的課題にも積極的に取り組み、進路達成のために「層努力」している。将来を展望しながら行動することができ、部活動では全体を牽引する立場となり、全国総文祭に出場を果たした。弱い立場にいる人たちのために役に立ちたいという強い思いを持ち、平成28年の熊本大地震後に果敢にボランティアの希望を募った際、我先に手を挙げ、被災者の悲痛な心に寄り添ったボランティア活動に携わった。1年次より各種大会に出場し、高校長たる競技に尽力した。また、2年次後半からは部長として部をまとめ、後輩の育成に尽力した。

「主な大会実績」

- ・第5回九州地区高等学校小倉百人一首かるた大会(ベスト8)
・第28回熊本県高等学校小倉百人一首かるた大会優勝
(全国高等学校小倉百人一首かるた選手権大会団体ベスト8)
・平成28年度全国高等学校総合文化祭(おしま大会出場)
・第6回九州地区高等学校小倉百人一首かるた大会(ベスト8)
・平成29年度全国高等学校総合文化祭みやぎ大会(ベスト16)

鹿本高校同窓会員数

(平成30年3月31日現在)

Table with 5 columns: 校名, 学科等, 男, 女, 合計. Rows include 旧鹿本高等学校, 尋常中学済々黌城北分費, 鹿本中学校, 鹿本高等学校 (普通科, 農業科, 定時制, 電気科, 機械科, 計).

Table with 5 columns: 校名, 学科等, 男, 女, 合計. Rows include 山鹿高等学校, 山鹿高等女学校, 山鹿高等女学校 (実科, 併設中学校), 山鹿高等学校 (普通科, 工業科, 商業科, 計), 鹿本高等学校, 鹿本高等学校 普通科, 総計.

近年の進路状況

Table with 6 columns: 進路先, 平成25年, 平成26年, 平成27年, 平成28年, 平成29年. Rows include 国公立大学, 私立大学, 短期大学, 看護学校, 専門学校, 公務員.

楷樹の再移植事業に寄せて

顧問 井上 尊文

昨年、母校は「創立百二十年・統合五十年」の記念の年を迎えた。明治二十九年創立以来正に城北の地に着実・確固たる歩みを続けた結実である。

記念事業の一環として念願の教育木「楷樹の再植樹」を執行委員会で取り上げて戴いた。



初代楷樹

同窓会兄弟には、是非母校にお立ち寄りの節は、教育木の象徴である第二楷樹の若々しくさわやかな力強い成長振り、と、凛凛しく育つ後輩諸君の姿を重ね合わせて見学して戴きたいと念願している。

病む脚を曳きずり

植ゆる楷の木に

夢託さむと厚く砂撒く。

(平成三十年六月二十七日)

参考資料「楷樹の下で夢(志)を語ろう」(同窓会だより第十六号)

初代楷樹は、私共鹿本二〇会員(旧鹿本中学昭和二十年度入学・旧鹿本高二十六年度卒業者)が平成四年六月、還暦に当たり、当時、菊池郡泗水町の孔子廟建設時の苗木の分与を受けて、同窓会館前庭の駐車場横に植樹を行い順調に成育していたが、近年急に枯死してしまい大変残念な思いを抱いて居た。幸い今般、母校記念事業実行委員会が、中嶋同窓会長、瀬口校長先生、牛島PTA会長始め役員の方々の温かい配慮と協力を戴き乍ら再植樹式が催行されたのである。



創立120周年、統合50年を迎える記念の年に、平成29年度同窓会の担当学年となった巡り合わせに驚き戸惑いながらも、身の引き締まる思いで「友情の団扇」を受け取った。

絆は歌声にのせて

『15の手紙』に想いを込めて

平成29年度鹿本高校同窓会担当学年実行委員長

(13期生・昭和56年鹿本高卒)

栗原 輝美

同窓会員数が4万人を超える長い歴史を知り、同窓生の各分野での活躍を見聞きする毎にその一員であるという誇らしい思いは、忘れていた39年前の憧れの制服を着て入学したときの感激を思い出させる。

鹿本高校を卒業し、長い時間それぞれに人生を歩んできた。楽しかった三年間を振り返ることも忘れ、ひたすら「今」を一生懸命過ごしてきた同級生も多いのではないかとと思う。だが、同窓会当日までの準備を進める中で、同級生の頼もしさに感服し、温かさに癒され、同窓会への期待が大きく膨らんでくる。

当日は、多くの同級生・同窓生の皆様の参加を得て、創立120周年・統合50年を記念する同窓会が開催できたのではないかと自負する。

同級生で合唱したアンジェラ・アキの『手紙〜拝啓十五の君へ〜』

歌詞のメッセージを感じ、今ここで皆と声を合わせ歌っていること

が、高校時代から今日までの長い時間を一気に縮める。こうして、一緒に過ごせる時間に感動、そしてこの場におけることに感謝の気持ちでいっぱい。

これから私たちができることは何だろうか。120年の伝統をまもるのももちろんだが、これからの歴史を作っていく学生への支援をしていくことではないだろうか。

歌のメッセージのように、人はいつのときも逃げ出したい感情に襲われながらもそれでも生きていく、ということがわかる年齢になった今だからこそ、在校生への応援団でありたいと切に思う。

同窓会のさらなる充実を願い、鹿本高校の発展を心よりお祈りします。



編集雑感

今年もまた、暑い(?)同窓会の時期がやってきました。

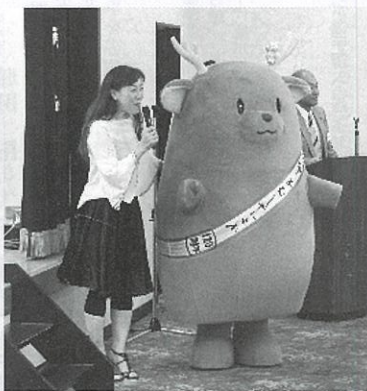
昨年は、母校創立百二十年の年にあたり、卒業生並びに在校生の皆さんには大変お世話になりました。記念事業を含め一連の行事が滞りなく無事に終了しましたことに厚く御礼申し上げます。

昨今の全国各地における天変地異にて多くの被害が出ています。被災された方々の気持ちを思うとき、只々心が痛みます。

私共も平成二年の大水害により店舗・倉庫・車両・住宅と被災し、復旧にヶ月を要しましたことを忘れません。

痛みの癒えぬうちの重なる出来事に慰める言葉も見付かりません。一日も早く明るい日々が戻ります様に、また同窓会会員・在校生の皆様のご活躍を併せてお祈りし、事務局長としての御礼の言葉といたします。大変ありがとうございました。

(前同窓会事務局長 宮川政士)



御寄付御礼

創立120周年・統合50年記念事業に伴う寄付の御協力ありがとうございました。

おかげさまで6月末現在、総額3,943,760円の御寄付を頂きました。御寄付いただいた中から記念タオルを作成、また今後、全校生徒用の帽子と朝礼台の購入を予定しております。

引き続き、鹿本高校の在校生への熱いご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。